

2018年5月28日  
井関農機株式会社

2018年12月期 第1四半期 決算説明会  
質疑応答要旨

1. 業績に関する質問

(問1) 中国東風井関が第1四半期で大幅減収となった要因は？

(回答)

・市場全体が低調であったと考える。

補助金が過去10年間上昇してきたが昨年は186億円と減少、今年も同水準。さらにその対象が高効率や先端技術に厚く振り分けられるようになった。また各地域の補助金の配分の発表遅れにより買い控えが強まった。更に、米価の下落等もあり市場としても様子見となったのではないかと見ている。

ただし、国の機械化目標達成に向けた取り組みは今後も継続され、更新の需要もある。田植え時期での推進、今後需要が高まってくるコンバインの拡販、先端・高効率面を加味した製品を投入するなど挽回を図っていききたい。

(問2) 第1四半期の連結営業利益が計画比▲3億円となった要因は？また計画に、今期一時的要因の施設不採算工事や退職給付の負担は織り込まれていたか？また業績計画修正しないとの事だが、今期営業利益計画の達成は可能なのか？

(回答)

・施設不採算工事については、計画に織り込んでいない。退職給付費用は織り込んでいる。

第1四半期は、国内外共に計画比売上未達となり営業利益も未達となったが、国内を中心に4月以降回復してきている。また、販売会社の収支構造改革やインドネシア事業の収益改善は引続き着実に効果が出ており、通期計画達成可能と考えている。

**(問3) PT.井関インドネシアの今期、来期以降の生産台数見通しは？**

(回答)

・PT.井関インドネシアは生産台数で今期 12,000 台を計画しており、2019 年に 15,000 台、2021 年には 20,000 台の生産に向けて現在増産体制を構築中である。製品倉庫、部品ストアとしての建屋を増設した。加えて、生産対応として塗装ラインの 2 交代制を実施している。また、来年以降、塗装設備投資や組立ラインの 2 交代制を実施し、生産台数を増加させていく。生産台数の増加により、利益も増加させていく。2 交替制により人件費は増えるが、現場改善による低コスト生産やコストダウンにより、海外で収益を稼ぐベース基地として、収益体質を一層強化していく。

**(問4) 海外製品の受注状況が計画を下回っている要因は？**

(回答)

・アメリカ、アセアン、欧州の減少が主な要因。

アメリカは OEM 先の AGCO 社が在庫調整を行ったため計画を下回っている。現状のコンパクト市場は前年並みと AGCO 社の市場想定を上回って推移していることと、現地実売も好調であるため今後引き取りが進むと考えている。

タイは昨年の当社からの出荷台数は前年比 2 倍となったが、昨年後半に天候、米価などの影響で現地実売が前年比倍増の計画に対し +40~60%にとどまった。その分が在庫調整となって計画に遅れている。

欧州はプレシーズンキャンペーンでの増販を計画していたが、天候不順等もあって後寄せとなっている。



## 2. 市場動向に関する質問

(問1)国内の1~3月で前期にあった第4次排ガス規制による反動減はあったか？むしろ天候不順が需要に与える影響が大きかったか？

(回答)

・2017年9月に大型クラスの排ガス4次規制があり、去年は若干の前寄せ需要があった。本年、その反動減がなかったわけではないが、影響としては限定的。天候不順については、2月の降雪、3月の雨などにより、実演ができない等販売活動が低下、農家としても春作業の準備ができない等影響があり、本年1~3月については天候不順の方が需要に与える影響が強かったと分析している。

(問2)国内の補助事業について本年の現状は？

(回答)

・昨年1~3月にあった野菜作関連の予算が今年は動きが遅かった。その影響もあり野菜作関係の本年1~3月は若干遅れているが、足許では申請等も進んできている模様。

(問3)先般発表の新潟市の「スマート農業企業間連携実証プロジェクト」(当社参画)は準天頂衛星「みちびき」と関連することはあるか？

(回答)

・このプロジェクトは、各企業の革新的技術を組み合わせデータを集約・一元管理し、稲作の省力化や低コスト化、高品質化に向けた定量的評価を実施することを目的としている。「みちびき」のテスト等を行なうものではないため、直接関連はない。「みちびき」を使用することで、精度が上がると考えられるが、「みちびき」対応については、まだテストの段階である。現状の直進アシスト田植機はアメリカ、ロシアの人工衛星を利用しており、「みちびき」には対応していない。



(問4) 野菜作機械について、機械の省力化、自動化の開発は進んでいるか？

(回答)

・国としても転作作物の省力化・自動化に力を入れており、当社でも野菜作機械化一貫体系を確立し、多くの作物に対応した機械を開発している。

野菜の産地化も進んでおり、今回ご紹介した玉ねぎ移植機は、今後、北海道以外の地域でも需要が高まってくると考えている。

(問5) 北米のコンパクトトラクタ市場を今年と来年どの様に見ているか？

(回答)

・コンパクト市場はここ 2～3 年続けて大きく伸長した。

AGCO 社は、本年のコンパクトトラクタの市場を減少～イーブンで見えていたが、ここまで前年並みで推移している。

希望的観測の面はあるが、今年・来年とほぼ前年水準で行くと見ている。

以上